

## 長崎県におけるキツネの目撃記録 2 例

深川 元太郎<sup>1)</sup>

Sighting record of *Vulpes vulpes japonica* Gray, 1868 in Nagasaki prefecture, Japan.

Gentarou FUKAGAWA<sup>1)</sup>

アカギツネの亜種であるホンドギツネは、本州、四国、九州に分布し、長崎県内では多良山系、島原半島などの県本土各地の記録がある(山口, 1973, 山口・兼松, 1989, 佐世保市, 2002, 浦田・荒木, 2006)。本種は、警戒心が強く、目撃する機会が少ないこともあり、最近、記録自体が非常に少ない。筆者もこれまで各地の山中や川へ出かけているが、なかなか目撃できないのが実情である。今回、筆者が目撃した本種 2 例について、目撃した状況と共にここに報告する。なお、今回は目撃による確認のため、詳細な部位等の計測を行っていない。そのため、確認した個体は、県本土に広く分布するホンドギツネ *Vulpes vulpes japonica* Gray, 1868 として取り扱ったが、キツネ属の他種の可能性を否定できない。

諫早市川内町 環境省メッシュコ - ド : 4930 2016, 2006年12月11日, 1 頭 (死体)

本場所は、諫早平野中央部の本明川下流部で、不知火橋右岸上流部の葭原樋門近くの道路脇の水田である。確認時はすでに死亡しており、死後少し経過した状態であった(図1)。本地点の周囲は、水田地帯が広がっている開けた環境であり、本種が生息するには多少違和感がある。本地点の北側には本種の生息が知られる多良山系が、南側には雲仙山系があることから、本個体は隠れる場所が多い本明川の河川敷や有明川の河川敷等を移動して本地点まで到達し、交通

事故等で死亡したものと思われる。確認地点は、上述の通り多良山系と雲仙山系の間位置しており、両個体群が交流している可能性がある場所である。また、河川敷の丈の高い草地等は、本種の摂餌・移動・分散手段として、本種が利用している可能性がある。なお、確認地点に近い吾妻地方では海岸で魚介類を捕獲する報告もあることも付しておきたい(山口, 1968)。



図1．確認個体(死体)

長崎市上浦町 環境省メッシュコ - ド : 4929 1635, 2011年8月25日, 1 頭

本地点は、小河川の手熊川上流部にあり、二次林や放棄された畑地などが散在する道路上である。筆者が徒歩で移動中に目の前20m先を横切っていった。大きさは本種にしては小さく幼獣もしくは巣立ち後間もない個体と思われた。横切った先が二次林となっており、林床には落ち葉が堆積していたが、本種が移動していく際

<sup>1)</sup>〒851 2127 西彼杵郡長与町高田郷3640 3 (公社)長崎県食品衛生協会食品環境検査センター

には、足音がほとんどしなかった事が印象的であった。本地点は、長崎市街地に近い岩屋山の山麓にあたり、長崎市周辺にも細々と生息しているものと考えられる。

## 文 献

佐世保市 2002. 佐世保市レッドデ - タブック 2002年 - 佐世保の希少な野生動植物 - 238 pp. 佐世保市環境部環境保全課 .

浦田明夫・荒木雅也 2006. 雲仙岳の哺乳類 . 雲仙岳の生物 171 175 .

山口鉄男 1968. 哺乳類 . 長崎県理科教育協会編長崎県の動物 1 38 .

山口鉄男 1973. 多良山系の動物 . 多良岳自然公園候補地学術調査報告 39 72 .

山口鉄男・兼松仁郎 1989. 長崎県の哺乳類 . 長崎県の生物 87 94 .



ポスター発表① (第45回大会より)